



多摩ブルー・グリーン倶楽部
会報誌

Tama Blue & Green Club Magazine

たまの力

2023
MARCH

Vol.7

INTERVIEW

- P2** トップリーダーに聞く
日本電磁測器株式会社 代表取締役 **笠原 有仁 氏**
- P3** 新事業にチャレンジ
アートビーム有限公司
代表取締役社長 **新井 傑也 氏**
- P4** 事業承継を経験して
特定非営利活動法人
青少年自立援助センター 理事長 **河野 久忠 氏**
- P5** グローバル企業の最前線
株式会社応用技研 代表取締役 **横山 光隆 氏**
- P6** 地域貢献
株式会社葵ヘルパーセンター
代表取締役 **谷津 麻奈美 氏**
- P7** 倶楽部事業レポート



お客さまの幸せづくり
たましん

常に磁気分野でトップを目指し

誠意・熱意・高い技術で

世界に通ずる製品をつくる



日本電磁測器株式会社
代表取締役

かさはら ありひと
笠原 有仁氏

東京都出身。法政大学卒業後、観光業に2年間従事。1996年に日本電磁測器株式会社に入社。各部署を経験後、中国工場・バンコク営業所の開設にも携わる。2015年4月に代表取締役役に就任。

磁気応用技術の グローバルニッチトップ 今年はヨーロッパへ

1953年に創業した日本初の磁気製品応用技術の専門メーカー、日本電磁測器株式会社。モーターや発電機、磁器センサーなどに用いられる着磁器や、X線・超音波などの非破壊検査装置を基盤とし、業界のバイオニアとして常に最新

技術の開発に力を注いでいる。
2001年には上海に合弁会社を設立し中国国内での着磁器生産を開始、2011年にはタイに営業

所を開設、今年はヨーロッパの展示会に出展予定など、グローバル展開も目覚ましい。
「幅広い業界で使われる着磁器ですが、その分だけ業界動向に合わせた対応が求められます。たとえば、モーター業界で言えば、以前はハードディスク用の小型モーターが主流だったものが、電気自動車やロボットなどを動かすためにモーターの大型化、高出力化、高回転化が進んでいます。今後、航空機やドローンに使用されるようになると、軽量化、高耐久性、熱対策なども課題になってくるでしょう。そうした状況下で着磁器に

は高耐久性、高電流密度などが求められてきており、それを実現するために磁場解析のツールを活用するといったことが必要となってきました」と笠原有仁社長。
「グローバルニッチトップ」と言われる同社には、時代を見据え、業界動向をつかみ、どのように対応していくかを常に考えるトップリーダーの姿がある。

知識ゼロから 全業務を経験し社員全員が 技術を身につける

日本でも数少ない磁気応用技術を軸とする同社では、どのようにして社員の技術習得を進めているのか。

「高校や大学で磁気分野の授業が多くあるわけではなく、専門書物なども少ないため、入社当初から知識を持っている社員はほとんどおりません。そのため、磁場解析、設計、製造、検証といったすべての業務に就けるように配慮しています。また、弊社はネオジム磁石の発明者である佐川先生と共同開発を行っており、開発業務を通じての技術習得も進めています」

実践経験を積みながら、所属部署にかかわらず、全員がエンジニアとして磁気に関する探究心を持って業務にあたるよう努めているそうだ。

第1回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

日本電磁測器株式会社

<https://www.j-ndk.co.jp>

東京都立川市砂川町8-59-2

TEL:042-537-3511 FAX:042-535-7567

E-mail:a-kasahara@j-ndk.co.jp

●創業:1953年2月 ●従業員数:100名(2023年2月現在)



社長のひとこと

持続可能な開発目標を実現するには、課題各種を技術的に決するという必要になってくると思います。多摩地域には優れた技術を持つ企業が多く存在しますので、企業間交流を通じて新たなイノベーションが起こることを期待しています。

人や地球環境に配慮した 革新的な材料と技法の開発に チャレンジしていく!



アートビーム有限会社

代表取締役社長

あらい かつや

新井 傑也 氏

埼玉県出身。1990年、アートビーム有限会社に入社し、製造・検査・営業・総務の各部門に配属。管理職を経験した後、2022年に代表取締役社長に就任。

鉛フリーの「低温ハンダ」と その技術を応用し 電極の長寿命化を実現

1987年の創業以来、板金加工事業を主とし、超精密板金加工・超精密放電加工で高く評価されているアートビーム有限会社。2016年には自社の研究機関「アートビーム株式会社 R&Dセンター」を設立し、人体に負荷をかけず地球環境に配慮した材料とその応用技法の研究開発にも注力している。

同社において、現在基軸となっているのが、有害物質である鉛を使用しない「低温ハンダ」と、その技術を使って電極の長寿命化を実現した空気清浄機などの製品だ。

「当社のハンダは、119℃、139℃、160℃で溶ける3種類。低温領域をカバーしていますので、一般的なハンダよりエネルギーコストを抑えることができます。鉛フリーで、接合時に酸化膜を除去するフラックスも必要としません。これまで接合が難しかったアルミや銅、全く接合できなかったセラミックや紙などの絶縁物にもつけることが可能です」と新井傑也社長。

開発においては、同社が掲げる「人や環境にやさしく」「将来の市場が求めているもの」をコンセプトとして臨んだというが、なおかつ大手のハンダメーカーなどが手掛けていない材料を用いる必要があった。その結果、基本の製品に仕上げるまで約3年、市場ごとの細やかな仕様や要求に対する調整に約1年を要したのだという。

先見の明、判断力、 チャレンジ精神、 これがアートビームの 真骨頂

常に新たな材料・新たな製品の開発にチャレンジするアートビーム。その実現を同社のR&Dセンターが支えているが、そもそも自社で研究機関を持つこと自体が大きなチャレンジである。どのような思いで設立に至ったのだろうか。

「開発試作品の加工という現状のビジネスが成熟産業となり、コスト競争のみの市場になった場合に備えて、何か違った分野での製品づくりが望ましいと思いい、夢ではじまり、技術の粋を究め、社会に貢献する」をモットーに2000年頃、前代表取締役の新井卓が設立しました」先見の明と判断力、そこにチャレンジ精神が重なって、現在の同社が成り立っている。

第4回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

アートビーム有限会社
<https://www.artbeam.co.jp>

東京都八王子市中野山王1-6-6
TEL:042-622-7380 FAX:042-622-7481
E-mail:arai@artbeam.co.jp

●創業:1987年12月 ●従業員数:47名(2023年2月現在)



社長のひとこと

「企業は人こそが全て。縁あって入社し研究を積み重ねた社員がいなければ、今の私たちはありません。小さな企業が独自の技術で新しい製品を世の中に送り出せば社員も含め多くの人に夢が与えられると思います。失敗を恐れずに、新しいことに挑戦していきたいですね。」

社会的弱者への支援を続けて46年

歴史のなかで培ってきたものを大切に 時代に応じた新たな課題に取り組んでいく

予定より早期の事業承継 コロナ禍での組織改革に着手

青少年自立援助センターは、ひきこも

りなど困難を抱える子どもや若者と向き合い、自立を支援する特定非営利活動法人。前理事長の工藤定次氏が立ち上げた、不登校や非行、障害のある子どもたちに

学習指導を行う「タメ塾」を前身とし、現在では活動範囲を拡大して、多彩なプログラムで多くの人の社会復帰や自立支援に取り組んでいる。

河野久忠理事長がこの事業を受け継いだのは2019年8月、自身が50歳のときだった。それまでも常務理事として全体的な管理業務や保護者相談・訪問支援・宿泊型自立支援などの現場活動、

社会状況のなかでどのように現状維持していくかに心を砕き、努めてきたとのこと。また同時に、職員が個々に考えて課題を発見できるようになることや、各所の意見を運営に反映していける組織構造に着手したのだという。

総合福祉的な観点を広げ 重層的に支援するのが 同法人のミッション

長期化・高齢化するひきこもりによる8050問題やコロナ禍による孤立化、ウクライナなど戦地からの避難民受け入れなど、増加する社会的弱者に真摯に向き合い、福祉領域から自立就労支援に至るまで、幅広いサービスを組み合わせるサポートにあたる同法人。

「社会的弱者には様々なタイプが混在し、その要因も様々です。決して一つの支援策で対応できる課題ではありません。使える社会資源に横串を刺して重層的に支援していくことが今後必要になります。そこに応えていくことが我々のミッション」と河野理事長は話してくれた。



このひきただ 河野久忠氏

特定非営利活動法人
青少年自立援助センター
理事長

東京都出身。中央大学卒業。在学中に青少年自立援助センターの前身である「タメ塾」にてひきこもり支援を開始。2019年8月に代表理事に就任。

行政対応などにあたっており、やがては受け継ぐ心づもりはあったものの、前理事長の体調不良によって予定より早い事業承継となった。「この事業はタメ塾開設から45年以上、常に行政支援の届きにくい層への支援を実践してきた歴史があります。今まで培ってきたものを大切にしながら、時代に応じた新たな課題への対応をしっかりとやっていきたい」と河野理事長。折しも事業承継後すぐにコロナ禍となったことから、当時は刻々と変化する

第2回多摩グリーン賞 優秀賞/特別賞受賞

特定非営利活動法人
青少年自立援助センター
<https://www.npo-ysc.jp>

東京都福生市福生2351-1
TEL:042-553-2575 FAX:042-551-6759
E-mail: ysc@interlink.or.jp

●創業:1999年6月 ●従業員数:164名(2023年2月現在)



理事長のひとこと

自立支援には、地域の支えも重要です。特に職場体験などは自立に向かううえで大切な機会となります。人材難の時代、このような機会を人材確保の手段として、ぜひ若者の体験機会や雇用の入口の提示などをご協力いただくと大変助かります。

世の中に貢献する製品を 安定してつくり続け、 誇りを持てる会社でありたい



株式会社応用技研
代表取締役

よこやま みつたか
横山 光隆氏

北海道出身。東海大学工学部卒業。タケダ理研工業株式会社(現:株式会社アドバンテスト)を経て、1970年に株式会社応用技研を設立。翌年、ラドメータAE-131DWを開発。

放射線測定器の 小型化・高性能化を実現し 世界に認められる

放射線測定における技術の進歩とともに発展してきた株式会社応用技研は、原子力の平和的利用に寄与してきた。特に原子力発電所や医療分野において「標準器」と呼ばれる測定器(検出器・エレクトロメータ)を開発し、各所で採用されてきた実績を持つ。

2005年には日本原子力研究開発機構

の研究者が、小型化を実現した同社のサーベイメータ「AE-133B」を用いてフランスの標準測定現場にて試験測定を行った。その結果が学術誌「RADIOISOTOPES」(公益社団法人日本アイソトープ協会発行)の英語版に掲載され、国内外において同社の技術が広く知られるようになった。また、東日本大震災以降は、除染作業現場はもろろん、環境調査などで汚染現場に入る研究者たちも携帯し、放射線の漏洩量の測定に使われるなど、復興に大きく貢献している。

「東京電力福島第一原子力発電所では、汚染水タンクの線量評価に弊社のサーベイメータを採用いただき、タンクのまわりを人が巡回して線量率を管理したり、放射性物質を取り除くアルプス装置の内部で定点測定用として活用いただくなど、縁の下の力持ちとして働いていることを誇りに思っています。また、廃炉作業のロボットに搭載する線量計としては、弊社の大線量測定器シリーズが多数採用されており、成果を積み上げています」と横山光隆社長。「世の中に貢献する製品を安定してつくり続け、誇りを持てる会社でありたい」と言葉を続ける。

国際規格に則した製品で グローバル展開を目指す

「この先はどんな業界においても、日本産業規格(JIS)だけでなく、国際規格(ISO・IECなど)をも意識した製品を開発・生産していかなければなりません。国内で販売するものであっても、国際規格を無視した製品はやがて通用しなくなるでしょう。言語の壁などハードルの高い部分も多いのですが、国際規格に則した製品をつくることができれば、小さな企業であってもグローバルに展開できるチャンスがあります」と横山社長。世界の声を拾いながら製品開発につないでいくことを目標にしているそうだ。

第9回多摩ブルー賞 最優秀賞受賞・第13回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

株式会社応用技研
<http://www.o-yo-giken.co.jp>

東京都清瀬市下清戸2-599
TEL:042-492-2734 FAX:042-492-7006
E-mail:y-yokoyama@o-yo-giken.co.jp
●創業:1970年3月 ●従業員数:8名(2023年2月現在)



測定器「AE-133BH」

社長のひとこと

弊社は受注生産型・多品種小ロット生産のため、短時間に大量生産する技術やノウハウに乏しい部分があります。今後、弊社製品が量産することになった際には、みなさまのお知恵を拜借できましたら幸いです。地域内の多くの企業様と交流を深めたいと思います。

介護サービスを通じて社会に貢献

地域の在宅介護を支えていく

特徴あるサービスで介護を必要とする高齢者に寄り添う

株式会社葵ヘルパーセンターは、1979年の創業以来、病院の付添事業など地域に根ざした介護サービスを提供してきた。2000年の介護保険法施行を機に東京都の指定事業所となり、現在では八王子市と日野市、2つの事業所を

拠点に訪問介護サービス、居宅介護支援サービス、障害福祉サービスなどを展開している。

なかでも、コール端末のボタン一つでオペレータにつながり、夜間であっても利用者宅を訪問し、おむつ交換やトイレ介助などを行う「夜間対応型訪問介護」や、時間を問わず利用者一人ひとりの生活に合わせた介護・看護を提供する「定期巡回随時対応型訪問介護看護」は24時間365日体制でケアを必要とする高齢者の不安に寄り添う、同社の特徴あるサービスだ。^{※1}※2いずれも八王子事業所のみで提供）

「地域の在宅介護の充実を図るため、様々な事業に積極的に参入していくよう日々努力しています。しかし、ご家族の事情もあり、要介護度の高い重度な利用者様が家庭で過ごすこと自体に様々な課題があります。また、人材不足もあり、24時間365日動くサービスを提供し続けるのは簡単なことではありませんが、すべてのサービスにおいて利用者様の日々の生活を考える支援を行っています」と谷津麻奈美社長。

同社には約150名のホームヘルパー

が在籍。約400件の利用者宅にサービスを提供し、地域の在宅介護を支えている。

介護をする人・される人

どちらにとっても

より良い会社には

ここ数年のコロナ禍では、介護・看護サービス事業は厳しく過酷な状況に置かれた。そんななかでも「決してサービスを止めてはいけない」のがこの事業だ。

「ほとんどの人が、どこかのタイミングで自身や家族の介護が必要な状況に直面します。そんなときに、身近に頼れる事業所でありたい。在宅介護を希望する地域の皆さまが安心して暮らしていくために、どんな状況下でも介護を提供し続けられるように努力してまいります」と谷津社長。

人材不足が著しい業界ではあるが、「社員が働き甲斐を感じられる会社、ポジティブな意識で働ける会社になりたいと思っています。介護サービスを通じて地域社会に貢献するとともに、介護を提供する側の人々にとってより良い会社となり、雇用を通しての地域貢献も目指します」と話してくれた。

株式会社葵ヘルパーセンター

代表取締役
やつ
まなみ

谷津 麻奈美氏

東京都出身。米国オレゴン州立大学ビジネス学部卒業。2013年4月、株式会社葵ヘルパーセンターの先代社長、谷津和子氏から事業を承継し、同社代表取締役就任。会議通訳者としても活躍。



第3回多摩グリーン賞 優秀賞受賞

株式会社葵ヘルパーセンター
<http://www.aoihc.com>

東京都八王子市明神町2-22-10 2F
TEL:042-645-8939 FAX:042-645-8399
E-mail: aoi.com@mbr.nifty.com

●創業:1979年5月 ●従業員数:35名(2023年2月現在)



社長のひとこと

2022年6月、弊社は新社屋へと本社移転いたしました。これからは地域の同業者様と連携し、また、異業種の皆さまとも交流を深め、様々な可能性を探っていきたくと思っています。

Tama Blue&Green Club Business Report 倶楽部事業レポート

多摩ブルー・グリーン倶楽部は、多摩ブルー・グリーン賞受賞企業と選考委員、後援団体による組織です。

受賞企業の経営課題の解決と相互連携および地域経済の振興を目的に、事業を通じて会員相互の連携を深めます。

多摩地区大学就職研究会とのインターンシッププログラムを実施しました

実施期間 2022年8月中旬～9月中旬の1カ月間

多摩地区にある19の私立大学、多摩地区大学就職研究会の協力により、インターンシッププログラムを実施しました。6社の企業において20名の学生がインターンシップを行いました。

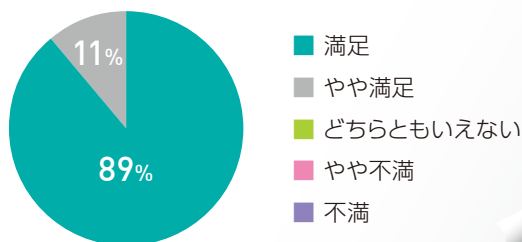
参加企業

エム・ケー株式会社	東成エレクトロビーム株式会社
株式会社テラダイ	株式会社シーズプレイス
金澤建設株式会社	森田テック株式会社

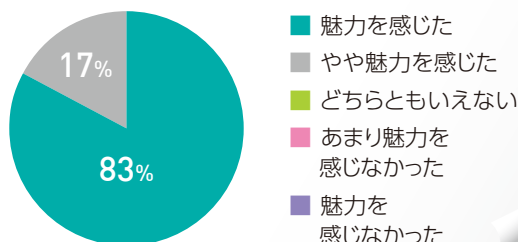
参加学生アンケート

1 インターンシップに参加した企業について (以下、「インターン先」とする)のインターンシッププログラムについて

Q インターンシップの総合評価

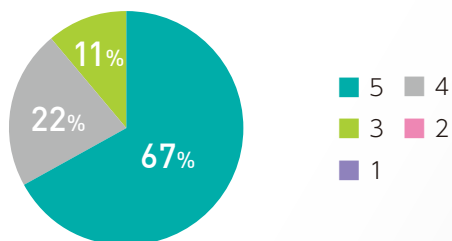


Q インターンシップに参加した結果、インターン先に魅力を感じたか

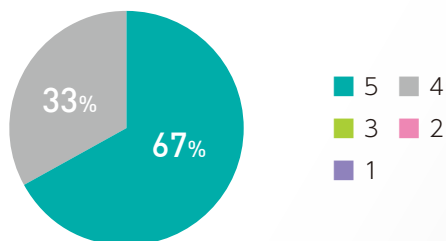


2 インターンシップに参加した企業の仕事や人に関する魅力、職場の雰囲気、感じたことについて (※5段階評価で数値の高いほうが「肯定的な評価」となる)

Q 企業文化・社風が魅力的に感じる



Q 経営理念・ビジョン(目標)が魅力的に感じる



参加学生の声(抜粋)

- 起業に至るまでの考え方がったり、仲間との関わりだったり、私のこれからに必要なことを教えていただきました。
- このインターンでは、事業から学ぶよりも人から学ぶことが多かった。
- このプログラムを通して、身近な多摩地域でご活躍される企業を知り、興味を持つきっかけになりました。
- 自らの視野を広げることもつながり、住むこの地域に貢献できるお仕事も素敵だと考えました。
- 職業体験の他、ディスカッション、プレゼンする機会があったのはとても貴重な経験でした。
- 中小企業だからこそできる相互確認のコミュニケーションがとても良い取り組みで興味深くと感じました。
- 会社で働く雰囲気を肌で感じる事ができて、今後の就職活動にも生かせると感じました。
- 参加する事でしか聞く事のできない生の声を聞く事ができて、とても参考になりました。
- 参加することでその事業の基本的な知識や重要性について理解することができました。
- インターンに参加して業界への理解が深まりました。得た気付きを今後の就活に活かしていきたいと思えます。

「第33回例会」のご案内

日時 2023年4月20日(木) 14:00~17:00 (受付13:30)

場所 たましん本店4階 大会議室 (東京都立川市緑町3-4)

内容 例会 14:00~
第1部 講演
『健康経営とウェルビーイング
~しあわせに、健康で、豊かに、笑って働く~』

さ の まさ ゆ き
■ 佐野 正行 氏

株式会社メディカル アンド ナレッジカンパニー代表 医師・産業医

名古屋出身。1995年名古屋大学医学部卒業。外科医として、国立がん研究センター中央病院、名古屋大学医学部附属病院などで、3000人以上の手術に携わり、がん治療、緩和医療を行う。2011年に株式会社メディカル アンド ナレッジカンパニーを創業し、産業医として活動を開始。食生活改善による健康指導や予防医療、免疫力を上げて未病に対応するなど、こころと体を潤し、「健康に、その人らしく、しあわせに過ごす」サポートを治療から健康相談まで総合的に行う。自身が医師として、非常に過酷な労働環境で働いた経験から、労働環境を整えることの大切さを実感。一部上場企業から中小企業まで、約35社の産業医として企業の健康経営に大きく貢献している。



第2部 第20回多摩ブルー・グリーン賞 受賞企業のご紹介

(最優秀賞受賞企業2社によるプレゼンテーション)

定員 60名程度

- ・ご自身に発熱(37.5度以上)の症状や体調が優れない場合は参加をお控えください。
- ・会場の入口付近にアルコール消毒液を設置しますので、入室時には、手指のアルコール消毒をお願いします。
- ・会場内での飲食はお控えくださいますようお願いいたします。適宜水分を補給いただくことはこの限りではありません。
- ・新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、中止や延期、内容の一部変更となる可能性があります。

多摩ブルー・グリーン倶楽部事務局

多摩信用金庫 価値創造事業部

東京都立川市緑町3-4

TEL: 042-526-7728 E-mail: bg-office@tamashin.net